



報道関係者各位

2021年6月18日
横浜中華街発展会協同組合
理事長 高橋 伸昌



街を挙げての新型コロナウイルス感染拡大防止へ 横浜中華街・新型コロナワクチン職域接種実施のお知らせ

横浜中華街の発展のために活動する横浜中華街発展会協同組合（以下、「中華街発展会」）は、職域での新型コロナウイルス接種を開始する政府方針に従い、横浜中華街での「職域接種」実施に向けて検討を開始いたしました。

横浜中華街は、日本中の多くの街と同様に大きな被害を受けておりますが、中国ヘイトによる差別被害など風評被害の影響はまだ根強く、残念ながら甚大な被害が未だ続いています。そんな厳しい状況の中でも、横浜中華街では、感染拡大防止対策の徹底/20時まで時短営業/酒類提供禁止/密を作らない/不要不急の外出をしないなど、国を挙げての感染拡大防止対策に、組合員全員が実直に協力し、感染拡大防止に全力で努めています。だからこそ、多様な業種が集まる商店街での実施は全国でも初めて近く、また大きな費用負担が強いられますが、お客様と街の安心安全と一日でも早い街の復興に繋がることは何とか実施したいと「街を挙げての職域接種」の実施することいたしました。

職域接種対象者は、中華街発展会の加盟店舗（391店舗・2021年5月末現在）にて働く従業員に加え、店舗の管理運営に関わる協力会社スタッフなど、国籍・雇用形態に関わらず「横浜中華街で従事する者」とし、対象人数は事前に実施したアンケート結果から4,000～6,000人規模となると想定しています。現在、医療従事者確保など、実施に向けての調整を進めており、調整出来次第に国に申請をし、出来るだけ早い実施に漕ぎつきたいと考えています。尚、事前に実施したアンケートでは、84%の組合員が接種を希望するとの回答でした。

横浜中華街は、一日も早い国内でのワクチン接種実施へ協力するとともに、街全体でのワクチン接種を実施することで、街で働く人々、来街くださるお客様、周辺地域へ少しでも安心いただき、神奈川/横浜の観光人気の一端を担う者として、地域経済への貢献に繋がればと願っています。



<横浜中華街・新型コロナウイルスワクチン職域接種実施概要>

- 会場：中華街パーキング（協力：横浜中華街パーキング協同組合）
- 期間：2021年7月下旬～9月初旬の約4週間（6/17時点での想定）
- 対象人数：4,000～6,000人（1日あたり約400人接種を想定）
- 実施時間：18:30～22:30の4時間での夜間接種を予定（地域医療への配慮するため）
- 対象者：

18歳以上の組合店舗従事者（横浜中華街内の店舗に勤務する該当店舗の経営者、社員など（正規・非正規・契約・派遣・パート・アルバイトなど全ての雇用形態が対象）店舗において本人確認が行える者）で、ワクチン接種を希望する者（※3）

- 1）店舗経営者及び従業員（全ての国籍（※4）、正規/非正規関係なく全雇用形態）
- 2）対象店舗の常駐者（常駐警備員など、従業者と同様にその店舗に関わる者）
- 3）（1）～（2）で育休、産休など、一定の休業期間を経て職場復帰する者

※1 従業者当人のみ。その家族は対象外。

※2 高齢者接種など、自治体によるワクチン接種を既に受けた方は対象外

※3 ワクチン接種は強制されるものではなく、あくまでも個人の状況に応じて一人ひとりが判断するものであるため、事前に接種希望の有無を確認し、希望者のみに実施。

※4 在留資格を有する外国人国籍の者。

- ワクチン：政府より配布されるモデルナ社製ワクチン

中華街発展会は、街の組合として、横浜の発展の一助を担うものとして、可能な限りの社会的責任を果たし、一日でも早い状況の収束に向かって、引き続き全力で取り組んでまいります。

<本件に対するお問い合わせ>

横浜中華街発展会協同組合 担当：入澤 info@chinatown.or.jp

TEL. 045-662-1252 FAX. 045-211-0593

神奈川県横浜市中区山下町 118-2 留日廣東會館ビル 5F www.chinatown.or.jp



【新型コロナウイルス感染症と横浜中華街】

2019年12月 中国武漢での報道を受け、「中華街は平気か？」という声が聞こえ始める

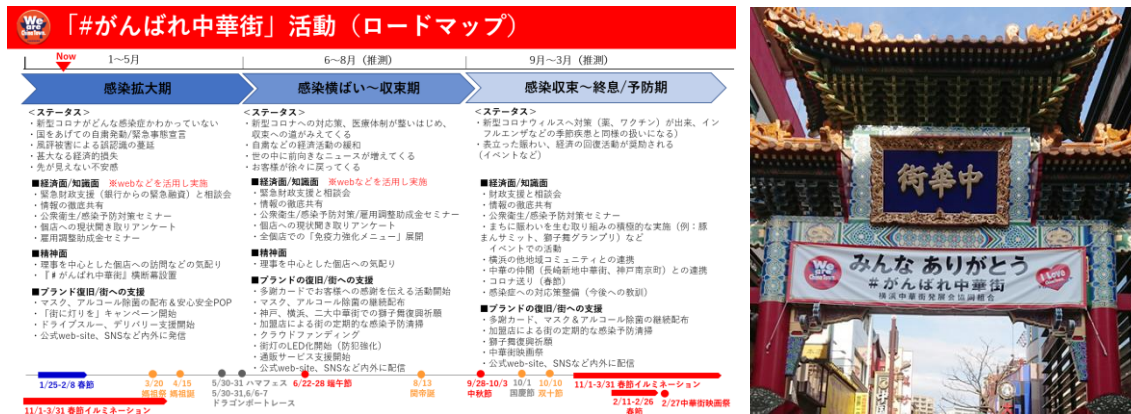
2020年1月15日 国内初の新型コロナウイルス感染者が確認される。発生場所が神奈川県との報道から横浜中華街ではないかという噂がSNSなどで出回り（正しくは相模原市）、「横浜中華街は危ない」という風潮が始まり、来街者数が激減し始める。

2020年2月 横浜港に停泊中のダイヤモンド・プリンセス号でクラスター感染が発生。横浜の観光エリアは、甚大な被害を受けた。また、横浜中華街では、根も葉もない噂による風評被害が深刻化。経済的打撃だけでなく、精神的打撃も受けた。

2020年3月初旬 複数の店舗へ中国人を誹謗中傷する内容の手紙が届く人権侵害被害が発生。

↓

2020年3月20日 誹謗中傷の手紙が届いた店舗の一つ「海員閣」のTwitterつぶやきをきっかけにSNSを中心に、「中華街がんばれ」「負けるな」と全国から応援のメッセージが多く寄せられた。応援して下さる全ての方々による励ましへのお礼と、街一丸となって新型コロナに立ち向かう気持ちの旗印として、善隣友好の象徴である善隣門に「みんなありがとう #がんばれ中華街」横断幕を掲げる。この横断幕は、横浜中華街が新型コロナに立ち向かう活動の旗印とし、以後の街の全ての活動は、この旗印の下で行うことにした。



< 「#がんばれ中華街」2020年2月作成のロードマップと善隣門に掲げた横断幕 >

2020年3月21日～現在

以下の5つの活動方針に従い、出来得る限りの活動を行っている。

- 国・県・市の方針に従い、日本国に在る者として感染拡大防止に全力で努める
- 街に関わる全てのステークホルダーを守るために、街の基盤を支える
- どんな状況においても、中華の伝統文化を守り続ける
- 中華の食文化、横浜の食を生み出す街として、食に関わる全ての安心安全を守る
- 内外に情報を見える化し、気持ちの面でも安心安全と未来志向を徹底する